



序章

前史

第I部 コニーアイランドー空想世界のテクノロジー

第II部 ユートピアの二重の生活ー摩天楼

第III部 完璧さはどこまで完璧でありうるかーロックフェラー・センターの創造

第IV部 用心シロ！ダリとルコルビジェがニューヨークを征服する

第V部 死シテノチ（ポストモルテム）

補遺 虚構としての結論

第I部

コニーアイランドー空想世界のテクノロジー

解釈

自然豊かなリゾート地としてのコニーアイランドは、当初はアクセスが不便であったために集客力はそれなりであった。しかし、鉄道や橋ができたことでアクセスが容易になり、週末には多くの人を押しかける場所となる。また、技術の発展により、人工的に自然や娯楽を作り出すことが可能となる。その集大成として、様々な娯楽施設が詰め込まれており、最小限の立地面積で最大の空間を生み出せる球という形態を使ったグローブタワーが造られる。この最小限の立地面積で最大の空間を生み出せずという考えが、「過密の文化」であるマンハッタンのモデルになっている。

第I部

コニーアイランドー空想世界のテクノロジー

疑問点

- 一定の敷地に一定の人数が生活する場合に、高層化することで空いた土地を自然などに使えるが、過密を引き起こす問題と、低層ではあるがあまり自然などには使える土地が少ない問題ではどちらが優れているか。